

# きらめき 可児の人



## ミニテニスを広めていきたい

とある  
赤井昶さん (67歳・若葉台)

赤井さんは可児市で唯一、日本ミニテニス協会の公認指導員の資格を持っています。ミニテニスとは、テニスラケットを小さくしたものとビニール製の大きなボールを使い、バトミントンコートでプレーするスポーツ。ダブルス制でワンバウンドしたボールを打ち合います。

赤井さんがミニテニスに出会ったのは58歳の時。定年退職を前に「体がなまるといけないから、何かスポーツを始めようかな」と思い公民館のミニテニス教室を夫婦で見に行ったことが始まりです。今では、ユニックでの指導や練習でスケジュールは埋まってしまいます。その甲斐あって、今年5月に小牧で行われた大会で念願の初優勝を飾ることができました。

「この素晴らしいスポーツを可児に広めていきたい」と言う赤井さん。来年、岐阜で開催される全国大会での入賞も目指しています。



儀平の紹介が書かれた石翁碑

【場所】



# ふるさと再発見 18

## 愛石家・三宅儀平の石碑

西帷子石原の建速神社に江戸時代の愛石家・三宅儀平の「石翁碑」が建てられています。享和三年(1803年)に建立されたもので、碑文によれば儀平80歳の寿碑であると考えられます。

儀平は石の収集家として、美濃国でも指折りの存在だったようで、当時、鉱物や化石など石の研究では全国一であった近江国の木内石亭と交流がありました。石亭が著した「雲根志」に13回登場していることから、その交流の深さがうかがえます。

石碑には、儀平の自慢の石のことや石にまつわる借金のエピソードなどが書かれています。碑の題字は、京都の公家である菅原長親、本文は尾張第一の漢学者であった河村益根によるものです。

※雲根志 全国から集めた石をさまざまな種類に分け、その特徴などを説明した石に関するもろもろの話がまとめられている石誌

みなさんの  
**善意**  
次の皆さんから浄財などの寄付がありました。(敬称略)

### 社会福祉に...

●渡辺芳彦 ●片岡正蔵 ●音の道音楽事務所

### 外国人の子どもの就学支援基金

●河崎典夫

ありがとうございました

## 「みんなの写真館」



「夕アオイ」  
(土田で5月31日撮影)  
村瀬さん(土田)



くろと  
芳賀蔵叶くん  
(1歳・下恵土)  
「お気に入りの自転車でお散歩だよ」



あやな はるあ  
大前綾菜ちゃん、陽愛ちゃん  
(5歳、3歳・久々利)  
「にこにご笑顔でパチリ」・「ドレスは大好きな水色!」

## 皆さんからの投稿写真を 募集します!

- 応募資格 市内在住の人
- 応募方法 地域の行事や市内の風景、お子さんの写真などを撮影した写真にコメントを一言添えて、住所氏名電話番号(お子さんの写真の場合はお子さんの氏名生年月日も)撮影日・撮影場所を明記し、郵送電子メール、または直接応募してください。
- 掲載できないもの 市外の風景や、ペットの写真、営利目的や政治団体・宗教的な写真など。

### 宛先

- ★郵送は 〒509-0292 広見一丁目1番地 広報かに「みんなの写真館」係
- ★電子メールは kouhou@city.kani.lg.jp (250キロバイト~1.5メガバイト程度で撮影)

## 学校からこんにちは Educe 9

### 土田小学校

土田小学校は、明治6年の創立以来、校区の変更・分離、他校との合併等もなかった可児市で唯一の学校であり、とても歴史のある学校です。

「地域に開かれ、地域に信頼され、地域とともに歩む学校」という理念にもあるように、児童は地域の皆さんに協力していただき、鳩吹山北麓のカタクリ群生地での種まき体験や校庭にある茶畑での茶摘み体験、学校の隣の白鬚神社で行われる行事に参加するなど、地域に根差した活動を行っています。また、児童数の約16%が外国籍児童ということで、国際理解教育を通じて、「共生」をテーマに日本と外国との文化交流も大切にしています。

校庭の南にある「可児の10本の木」に選ばれた推定樹齢120年にもなる大きなイチョウの木は、学校のシンボルとしていつの時代も土田っ子の成長を見守っています。

創立：明治6年  
児童数：472人  
学級数：18クラス  
所在地：土田4226-1  
電話：25-2652



ボランティアの人と茶摘みをする3年生の児童たち